



『志高く 未来を切り拓く』立川中学校通信
第17号 令和5年11月16日(木)発行

文責 佐藤正人

ようこそ富樫町長!



11月7日(火) 富樫透町長が、三年生と町の未来を語るために来校されました。
立中生が富樫町長に提案した内容は次の3点です。

- ① 庄内町・立川地域のここをこうして欲しい。
- ② 庄内町・立川地域のここをこうすると良いと思う。
- ③ これからも住みたい、また帰ってきたい庄内町・立川地域とは。

富樫町長は、生徒の思いに耳を傾け、現在の施策や、これから取り組んでいこうとしていることなど、庄内町の歴史的な背景も含め、丁寧に説明してくださいました。
生徒から出された提案の一部と回答を紹介します。

① 街灯が少なく、暗い道があるので街灯を増設して欲しい。

⇨自治会からの要望も確認しLED化を含め検討していく。

① バスの利便性を高め、余目地区への移動もスムーズにできるようにして欲しい。

⇨陸羽西線のバス代行で不便をかけているが、ハッピーバスの運行も行っている。部活動でも活用してもらっているようだが、うまく時間を確認し利用してもらえたらと思う。

① 町の風車をなくさないで欲しい。⇨現在、売電の単価が安価になり、利益が生み出せない状況にある。形を変えて風の町をアピールしていきたい。

② 立谷沢の自然、美しい景色のフォトコンテストや、おいしい食べ物を地域商品にし、町を活性化できないだろうか。⇨インスタグラムで紹介されているが、写真コンテストなど庄内町との関係人口を増やそうとイベントを開催している。県外はじめたくさんの方々来町し、美しい自然を堪能してもらっている。蛍の鑑賞会は圧巻だった。また、オフロードバイクのツーリングも林道で行うなど、自然を活用したイベントも実施している。皆さんの視点で、庄内町をアピールできるアイデアがあれば遠慮無く提案してほしい。

② 田んぼアートで「米の町」をアピールできないか。⇨面白い考えだ。検討してみます。

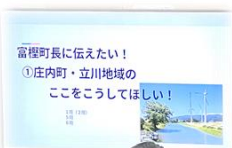
今後「亀の尾」を有機栽培し、おいしい米を提供できるようにとも考えている。

③ なかなか難しいテーマで、考えをまとめることができなかったようです。ネックは「仕事」でしょうか。将来どんな仕事に就いて生計を立てるか。社会科の久松先生は、「先端技術を活用したスマート農業には魅力を感じるんだけどなあ」と提案してくれましたが、現在の生徒達にとって、就きたい職業は、近くには無いようです。

富樫町長は話し合い後、生徒と一緒に給食(三陸友好給食)をとり、帰庁されました。

三年生は、自分達の立川中学校のこと(通学の不便さ 壊れてる設備 特別教室の暑さ等)ではなく、住んでいる立川地域のこと、住んでいる人達のこと(生き生きとした地域になるには)に広く目を向け、考え提案してくれました。公民学習(地方自治)の成果が現れた貴重な対話の時間となりました。庄内町の為に力を発揮してくれる人材が立中卒業生から誕生することを期待します。

これからも住みたい
また帰ってきたい
庄内町・立川地域とは?



“からふる” のみんなと、いっぱい遊ぶぞ～！オー！！



11月8日(水)3年生が家庭科の授業で作ったおもちゃを持って、認定こども園「からふる」を訪問しました。何でも楽しみに変えてしまう3年生は、「からふる」の子ども達を喜ばせようと意欲的に活動しました。体力のある3年生ですが、遊びにかけては「からふる」の子ども達の方が上だったようです。「圧倒されました。」「とっても楽しかった。」「幼稚園にもどりた～い」「癒やされた～」「疲れた～」といった声が聞こえてきました。

